修得科目数の時系列経過から見た大学生の卒業・留年

長尾俊明，吉田尚子，米澤愼二，原田　章（追手門学院大学）

はじめに

日本の私立文系大学において学生の退学率を下げることは重要な課題の一つである．学生の退学率に関する問題は一般に「エンロールメント・マネジメント(Enrollment Management)」(以下，EM)に含まれるものである．クロックとハンソン(2011)によると，EM とは，「学生が大学に入学し，在学し，卒業するまでの流れを検査・調査し，管理しようとする IR 活動と企画機能」として定義されている．日本における EM の取組としては，山形大学(福島，2015)や京都光華女子大学(金，2008)などがあげられる．特に，山形大学は学生調査や教学データを用いて様々な政策立案を行っている．ただし，山形大学での教学データ収集は多岐に渡っており，IR 組織が確立されていない本学では同様の活動は難しい状況にある．そこで，本研究では，学生の単位修得科目数について着目し，通常の学生と退学・除籍，留年の学生の間に違いがあるかについて分析することとした．またその結果から，大学における退学問題について検討した．

方法

分析の対象者は，中堅私立文系大学(学生数約 6,500 名)の 2010 年度および 2011 年度に入学した学部学生(2010 年度：1602 名，2011 年度：1582 名)である．ただし，編入学・再入学の学生は分析対象としなかった．次に，学生が各セメスターで単位を修得した科目数から，その累積を求めた．この累積修得科目数が卒業できたかどうかによって異なるかどうかを調べるために，学生を 4 年生終了時点の状況によって，卒業群(通常卒業した在籍学生)，退学・除籍群(学籍がなかった学生)，留年群(通常卒業しなかった在籍学生)の 3 群について検討した．また，2 年生(VI セメスター)終了時に留年が確定する学部群(以下，学部群 A)とそれ以外の学部群(以下，学部群 B)と組み合わせて検討した．

表１は各群の人数について示したものである．卒業群と留年群はすべてのセメスターで人数が変わらないが，退学・除籍群は学籍がなくなった時点で打ち切りデータとなるため，各セメスターの人数は少なくなっていく．

表１　分析対象者のセメスター別人数

		卒業	退学・除籍								留年
		Ⅰ～Ⅷ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅰ～Ⅷ
2010 年度	学部群 A	667	148	133	107	78	51	41	25	10	103
	学部群 B	523	94	86	69	55	30	20	15	11	66
	全学部	1190	242	219	176	133	81	61	40	21	169
2011 年度	学部群 A	674	110	94	71	59	36	30	11	1	95
	学部群 B	527	95	85	67	53	36	23	10	4	77
	全学部	1201	205	179	138	112	72	53	21	5	172

（単位：人）

結果と考察

図１は，各セメスターの累積修得科目数について，各群の中央値および四分位範囲を示したものである．各点が中央値，縦棒の長さが四分位範囲を表している．卒業群については，年度・学部群問わず各セメスターにおける累積修得科目数がほぼ一致する．また，四分位範囲が他の群と比べて短いことから修得科目数のばらつきも少ないと考えられる．この結果から，カリキュラムに関わらず，4 年

間で卒業(＝通常卒業)する学生の単位修得パターンは類似していると考えられる．したがって，通常卒業のパターンからどの程度逸脱しているかが，教職員による学生指導の指標として利用できるのではないかと思われる．

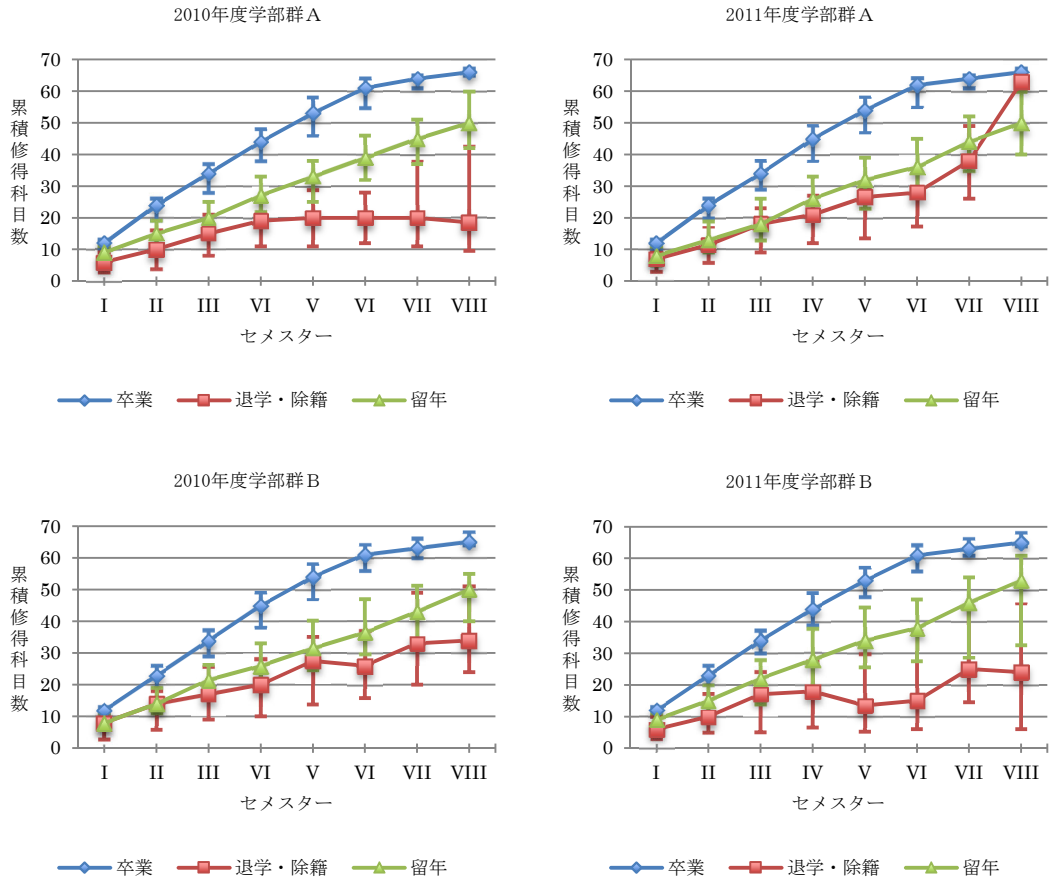


図１　入学年度学部群別累積修得科目数の中央値と四分位範囲

留年および退学・除籍群については，Ⅰセメスター終了の時点から既に卒業群との間に差が生じており，その差が詰まることがない．また，四分位範囲においても１年次終了(Ⅱセメスター)時点で卒業群と重なっていない．この結果から，留年または退学・除籍するかは確定できないが，通常卒業できるかどうかは１年次終了時点の単位修得科目数で判別できるのではないかと推察できる．したがって，留年や退学・除籍に関する対策は早い段階で行う必要があると思われる．今後，単位修得科目数が少なくなった原因を他のデータと組み合わせて検討し，EM の拡充と IR 活動への継承に役立てていきたいと考える．

参考文献

リック・クロック＆ゲイリー・ハンソン．(2011)．エンロールメント・マネジメント学務．IR 実践ハンドブック(リチャードD.ハワード編，大学評価・学位授与機構 IR 研究会訳)，玉川大学出版部，15-98.

金　明秀．(2008)．エンロールメント・マネジメントと教育実践の融合−京都光華女子大学を事例として−．京都光華女子大学研究紀要，46，251-296.

福島真司．(2015)．「総合的学生情報データ分析システム」の構築　山形大学におけるエンロールメント・マネジメントとインスティテューショナル・リサーチ．情報管理，58(1)，2-11.